368	おとうとのともだち	投稿者 かめ	<mark>評価者</mark> 一般審査員A	怖さ 18	鋭さ 18	新しさ 17	<u>ユーモアさ</u> 16	意外さ 15	<u>合計</u> 84	書評 さちらも怖い。あの世とこの世。二つの境界の恐ろしさが、非常にしっかりと語られており、なかなかの怖さがある。特に指摘するような欠点などはない。ちょっと言語化するのが難しいのだが、もっと切実な感じの話にすると怖さ2までいったような気がする。切実ってなんやねん!というツッコミが入りる
	おとうとのともだち	かめ	一般審査員B	14	13		14			までいったような気がする。切実ってなんやねん! というツッコミが入りるうなのであるが、私にもわからない。 初めから最後までしっかりとした良い話でした。1つあるとすれば百鬼夜行にやりすぎかなと思ったぐらいであとは本当に良かったです。とくに弟が騒がしい夜に窓辺で震えていたのは実は笑っていたからっていうくだりが映像が見まてくるようで最高でした。
	おとうとのともだち	かめ	一般審査員C	20						何回も予想を良い意味で裏切られ、読了後に満足感を得られた作品でした。「盤までは何が起こっているのか分からなかった部分が終盤の成人式後に一気に回収されていったは素晴らしかったです。向こう側からは何も持ってきては行けないというあえて「ボカシ」た表現も作品の深みを出す良いアクセントになっていました。
368 a	おとうとのともだち	かめ	一般審査員D	17	lo	20	18	17		お姉さんの目線から弟を暖かい目で見守っているからこそ、弟に起きている 異の不気味さが際立っていると感じました。異変が起きていても毎日見てい 家族だからこそ、慣れてこういうものかとつい見過ごしてしまうところもリールでした。夢の中のものを持って帰ってきてはいけない、と言う話もとても見味深いです。弟の夢に出てくるともだちは、なぜ異形の子どもたちばいかも気になります。三浦哲郎先生の名作を彷彿とさせる熱い流れではあった。のの、ここの子どもたちは良くない感情の塊だったので悲しくなりました。
368 ā	おとうとのともだち	かめ	一般審査員E	17	17	17	16	16	83	形の子どもたちは弟の心の隙間に入り込んだのか、深層心理の中に眠っていものだったのか、知ってはいけない気がします…とてもいいお話でした。あがとうございます。 復讐を果たした、ということになるのだろうか。はじめくんは、あっちへ行体質らしいが弟のともくんも同じことが出来てしまうのが不思議に思う。そ
										て頻繁に行き来しているとは上達が早い。ある意味ともくんは、はじめくん利用していたように思えてしまう。おばあさんとの約束事も知っていたのに忌を犯す。「石を返してあげるから・・・」これは『ともだち』として家に来ていたのではなくて、石を取り戻しに来ていたのかも。ということは、この『ともだち』すら利用して、か○ぬまくんを消したかったのではないか、それ気がする。
368 d	おとうとのともだち	かめ	一般審査員F	17	17	17	18	17		あの世であったり、異世界の物をこっちの世界に持ってきてはいけない、とう話はよく聞く。何故ならそれが怪異へのトリガーとなるからだ、というの理由らしいけれど、このお話で、はじめ君のおばあさんが言っていた事は、にそういう事なのだろう。おばあさんが所謂ユタとかであったりしたのかはからないけれど、何かしらの霊能力を持った方だったのだろう。このお話で怖いところは、はじめ君が石を持ってきてしまったところから、主さんの弟
368 ā	おとうとのともだち	かめ	一般審査員G	19	18	16	20	16	89	とも君が巻き込まれ、あの世から友達がやって来るようになった事だ。でも本当に怖いのは、その友達に、とも君を虐めていたという『か○ぬま君』とう男の子が何処かに連れて行かれてしまった事だ。勿論、とも君にしてみれば、自分を虐めてきた憎いヤツがいなくなってくれて良かったのだろうけれど、心中は複雑だ。 子供の純粋さ故の怖さが際立つお話でした。連れていかれた子がやったこと到底許せないしいじめの域を超えているけど、急に自分の子が消えてしまう。
368	おとうとのともだち	かめ	一般審査員H	17	18	18	16	19	88	思えました。なんだかボディブローのようにじわじわ心にくるお話ですね。 ストにかけて加速していく感じがとても良かったです。連れてきたお友達、 のっぺらぼうとろくろ首は分かったんですが、他が解らなかったので教えてい しいです(笑) 話が二転三転。どうなるの?どうなるの?と思いつつ読みました。怖さ、弟 の変化と連れてくる「おともだち」完全にこの世のものでは無いにも関わら 気づいていない弟。一方のお姉さんもそれを指摘できず。でも最後に明かされ
										気づいていない弟。一方のお姉さんもそれを指摘できず。でも最後に明かされる真相。恐ろしい!鋭さ、特に強く感じたのが自分を虐めていたクラスメイが連れ去られる時に浮べる笑みの部分です。凄まじい憎しみと復讐心。新しさ、終盤に出てくる石の存在です。呪物というより念が込められたものなのな?「あいつら」の正体も明確には分からない。ただ却ってそれが不気味さ、怖さを増してます。ユーモアさ、何せ要約すると虐められっ子が相手に復讐でる手段として「よくないもの」をそれと分かってて利用した、という事です。
368	おとうとのともだち	かめ	一般審査員Ⅰ	15	13	12	10	12		らね。この弟君も十分空恐ろしいですが、上手いこと仕返ししたな!と笑っちゃいました。意外さ、弟が事が済んでから一切合切「知らない」で通し、人になってからも果たして「本当に」記憶から消し去ったのか謎にしたままある点、はじめくんの再登場で明かされる当時何があったのかの真相です。 弟さんの様子が変わった時にきっと聞いてもいじめられたことは話さなかっただろうけど、解決の仕方が意外でした。そんな方法でいじめから逃れるなん
368	おとうとのともだち	かめ	一般審查員J	17	17	18	15	16	83	だろうけど、解決の仕方が意外でした。そんな方法でいじめから逃れるなんて。。。あの日の出来事は弟さんが仕組んだことだったということですよね。気恵の働く子だなと思いましたが、ほかの解決方法を思いついてくれたら良かたなと思いました。 この方の文章は美しく読みやすいので、好きです。友達がおばけ(妖怪)とう設定が、とても良かった。足に靴のペイントがしてあったのが、本当にあそうで面白かったです。このお話の実の怖さは、ひと怖なのかな、と思いまし
No 367 (タイトル ひとぶしの里	投稿者小日向まこと	合計 評価者 一般審査員A	171 怖さ 17	169 鋭さ 17	新しさ	157 ユーモアさ 15	159 意外さ 15	822 合計 80	書評 案外普通の話だと思った。全体的なバランスはいいと思う。ただ、突出した 素がないのが惜しい気がした。個人的には「ひとぶし」に関して、もう少しい意味や隠された意味などを感じ取ることができれば、もっと良かったと思
367	ひとぶしの里	小日向まこと	一般審査員B	14	12	14	12	12	0.	う。意味がよく分かる、というのは基本的にはいいことなのであるが、少し、想像の余地が欲しい。特に人の「情念」を扱っている以上、もっと奥底に表示可能なほどドロドロしたものを仕込むこともできたのではないかと思う。 面的な話の裏側に何かしらの「意味」が隠されていると、話が重層的になり、面白くなる。 人を鰹節みたいにして供える話は多分聞いた事ないですね。供物にはいろい
	ひとぶしの里 ひとぶしの里	小日向まこと	一般審査員B	14						人を鰹節みたいにして供える話は多分聞いた事ないですね。供物にはいるいあって勉強になりました。しかし1度たべたら病みつきになってしまう人節に怖いですね。呪いなのか薬みたいな作用なのかはわかりませんが知らない間食べさせられる恐怖は計り知れないなと思いました。 麻薬よりも怖い「ひとぶし」の依存性が衝撃的な作品でした。私がここ最近でんだ作品の中で群を抜いて鋭さを感じる作品でした。作品全体からダークなり囲気が滲み出していて、非常に深みのある怪談に仕上がっていたと思います。
367 (ひとぶしの里	小日向まこと	一般審査員D	18	17	18	19	18		囲気が滲み出していて、非常に深みのある怪談に仕上がっていたと思います。 人怖系の怪談かと思って読み進めたら、人怖でもありホラー要素もありのとも不気味な話でした。小さな集落の中でもさらにひっそりと続けられてきた。習を、たまたま訪れた外部の人間がぶち壊す展開はとても良いです。ある種のカニバリズムではあるものの、これまで見てきたものよりも日本人にとって、口に入りやすい物に変換されているところが恐ろしいものの、どんな味がすのだろうと興味が湧いてしまいました…
367 7	ひとぶしの里	小日向まこと	一般審査員E	16	17	17	16	16	82	のだろうと興味が湧いてしまいました 何か得体の知れないものを口にしてしまう気味の悪い内容だが、気がふれて覚を見て自制ができなくなるという薬中毒を置き換えた感じがする。文章の成で場面の切り替えに対して読みづらい部分があったり、『津田君が初めて佑野を手伝ったとき・・・』とあるのに『いつもは津田君が運転手をしていた・・・』と辻褄が合わなかったりしている。結局この長老が何を考えている。
367	ひとぶしの里	小日向まこと	一般審査員F	17	17	18	16	17	85	のか、運び屋の佐野や津田まで手にかけ、里の人たちも正気を失くさせてどするつもりなのだろう。長老も先は短い思うが、八岐大蛇の生贄は今後、誰調達してくれるのだろう。 ひとぶしとは何ぞ…?最初、タイトルを見て思った疑問は読んでいくと分か事ですが、鰹節ならぬ、人節だとは!一種のカニバリズムだと言えそうですが、亡くなった人間をまるで鰹節のように加工し、それを削り、出汁にしたした。
367 7	ひとぶしの里	小日向まこと	一般審査員G	20	18	20	17	16		して口にするとは、何とも恐ろしい。それは麻薬よりも強力なもので、一度[にすると、その美味しさに虜になり、再び口にしたくなるという。やがては、幻や幻聴、或いは本物の霊が見え出すのかは分からないが、そのようなものが見えだし、頭がおかしくなるようになり、破滅する。想像するだけで怖くなります。そんな里が存在しない事を願うばかりです。シンプルに怖かったうえ、タイトルの意味が解ってからの不快感が後半まで
	_			20	16	20	17	10		しっかり残る感じが素晴らしかったです。人肉を食するとそれに依存してしまうようになるという都市伝説と、オーソドックスではあるけど末恐ろしさを見じられる村の悪習が見事にマッチしていました。冒頭で人節を食べちゃダメのいうのを言われているのに、なんの疑いもなく尊重のご飯を食べてしまうという点は引っ掛かりましたが、そんなに思慮深い人たちでは無さそうなところが、していますね。でも、ある意味では村の悪習に終止符を打ったともいる。
367	ひとぶしの里	小日向まこと	一般審査員H	19	19	18	17	19	92	るのかな。もう正気の人間はいない=人節を作ることはできないわけですし。 因果応報と考えるとちょっとすかっとするような部分もありますね。最後に、 鰹節ができるまでを検索してしまいましたし、鰹節が食べたくなってしまいました。 りた。 グワゾワ、気持ち悪い、怖い!厭怖ですねー。怖さ、もう全部です全部!主 公「小日向」が津田から怪異体験を聴く冒頭から、津田が恐ろしいものに出
										わす場面、ひとぶしの描写、ガン怖です。ご飯食べれなくなるんでやめて下でい。。鋭さ、ここも登場人物達の欲深さが招いたツケの話だと思うんですが、その描きようが情け容赦無く話しが進むので背筋が凍る思いでした。まるで利な刃物で切り付けられるような。また、新しさですが、行われていることに死体で乾物を作って食すという狂気の沙汰にも程があるのですが、じゃあ怨い実際に出てくるかと言うとそうでは無く、あくまでも生きてる側の妄言に
										ぎないのでは?という点です。その表現に説得力があって、過剰に演出する も無く成立している所です。ユーモアさ、私は特にこういった「人の業の深 さ、愚かしさ」に滑稽さ、可笑しさを感じるので登場人物達の立ち居振る舞 に終始薄ら笑いを浮かべながら読んでました。性格悪いですね、我ながら。 外さ、主人公の小日向さんが危険に晒される事なく、あくまで聞き役として 田の話を聞く役回りだった点です。と言いつつ、ラスト危うかったですが。
367	ひとぶしの里	小日向まこと	一般審査員I	11	11	10	10	10	52	田の話を聞く役回りだった点です。と言いつつ、ラスト危うかったですが。活出はそもそも危ない仕事に首突っ込んでるので完全に自業自得です。同情はません。 人節なんて絶対おいしくなさそうだし。。。その前に気持ち悪いなと。怖いと活の前にただただ気持ち悪いなと。文章は私の苦手な感じで、あんまり頭に入てこなかったです。 ごめんない。 こんな村、本当に存在したらいやだな。自然死んだときにここに運ばれたくないな(笑)
367	ひとぶしの里	小日向まこと	一般審査員J	20	19	20	18	20	97	言うことはありません。ただ、ただ、全てがよくできていると感じました。 名も秀逸です。いわゆる共食いをすると、脳の病気になると聞いたことがあります。それを彷彿とさせるような設定に、恐ろしさを禁じ得ません。また、 老が他人にひとぶしを食べさせる理由の醜さ、それがこの怪談にますます彩 を添えていて良かったです。設定はもちろん素晴らしいのですが、表現力が かなのもこの怪談を楽しめる要素だと思いました。この話は本当に創作なの
No	タイトル	投稿者	合計評価者	170 怖さ	鋭さ	171 新しさ	156 ユーモアさ	意外さ	821 合計	かなのもこの怪談を楽しめる要素だと思いました。この話は本当に創作なのしょうか。津田くんはもしかして、実在の人物?そう思わせるリアリティも、多方面の知識をベースに作られたこの作品の魅力だと感じています。この方な次の作品が待ち遠しいです。 書評
	タイトル 連綿の輪	投稿者あきら	評価者 一般審査員A	怖さ 17			ユーモアさ 17			気分が悪くなる系の怪談。なのだが、別の観点から私は読んだ。ここからは 談の本筋とあんまり関係がない話だ。途中、Nさんが語った「運」に関する記 について。あれは本当に重要な事実である(だからと言って話の中のようなり方で「運」を得ちゃだめですよ)。なんだかんだ言って、成功するために、 後に必要になるのは「運」なのである。私は自分の価値判断基準に自信を持ているが、そうはいっても、このコンテストでグランプリをとる怪談は、必ず
355 3	連綿の輪	あきら	一般審査員B	12	13	13	10	13	61	しも私が最高点をつけた怪談ではない(発表されるたびに発狂している。もれま見るのやめようかな)。つまり、天才の私でもグランプリを完全に予想することができないということは、投稿者にとって最終的に必要なのは「運」のである。いや一実に興味深い怪談であった。 たしかに富豪とかの奇妙な集まりは存在していると思います。生け贄を捧げているかはわかりませんがそれに近い事はやっていると思います。恐怖した子供
355 j	連綿の輪	あきら	一般審査員C	18	12	12	12	12	66	いるかはわかりませんがそれに近い事はやっていると思います。恐怖した子作の肉や血を摂取すると若返るみたいな話も聞いたことがあるのでそれも、そいう集まりのひとつなんだと思います。なのでこういう話を聞くと本当の話がもと思う反面、邪神は存在しないよね、とも思いますし考えさせられる、い話でした。 カルト宗教の儀式の不気味さを良い感じに表現できていると感じました。閉込められてからレンメ様の声が聞こえてくる辺りの臨場感の出し方は特に好る
355 j	連綿の輪	あきら	一般審査員D	18	19	16	19	17	89	でした。 成功者する方にはそれなりの理由があって、謙遜で運が良かったという方もいると思います。しかし、本当に本人の努力や実力以上に運の強さで上りつめかような方もいてこういった儀式が受け継がれているのでは…と思ってしまいした。逃げられない状況に恐怖しつつも、欲に抗えない人間の心理が生々した。
355 j	連綿の輪	あきら	一般審査員E	17	17	17	16	16	83	感じられてとても怖かったです。ここに集まる人たちはきっと、目に光が感じれない人たちなのでしょう。成功を掴み取るために、どんな形であれ綺麗がままではいられないのかもしれませんね。運は平等に与えられるものではなく、分け与えるシステムというのがとても面白かったです。正に「運否天賦」オメラスや人柱のような話。ここに集まった人々の繁栄は一人のヤドカシの透って、なり立っているわけだ。しかも10年しか、もたない。面白いて
25	 南始 小 *^	ガナン	ķп							は選ばれる対象が人柱のように罪人や貧困な者ではなく割と強運の持ち主だいうところ。さして努力も苦労もなく生きてきた人間はこの先もイージーモードで過ごしてしまう。それでは生を受けた意味がないから人の役に立てるよな仕組みを神は創ったのかも。現在も運のいい人にあやかりたくて、くっついている人たちはたくさんいる。そして、姿かたちを変えてこの仕組みはこれの先も存続していくと思えた。
355 x	連綿の輪	あきら	一般審査員F	17	18	17	16	17	85	連鎖する恐怖と良くわからないものに対する畏怖。一つの信仰が一部の人々で間で延々と続いていく事はよくあるけれど、その中に入ってしまうと、それが当たり前で、異常な事だとは思わなくなり、その思想に染まっていく。そればとても闇深いし、恐ろしい。"運、のいい人というのは確かに存在するし、 "運、を上げる方法があるなら実践したいと思う人は多いだろう。けれど、のお話のように若くて活力がある幸運体質の人がある種の生贄にされ、その後をそこにいる皆で分け合う、というのは人間の業が生み出したものなのでは、
355 j	連綿の輪	あきら	一般審査員G	14	15	10	15	10		をそこにいる皆で分け合う、というのは人間の業が生み出したものなのではいだろうか。この世には自分の知らない世界が沢山あるんだろうけれど、これで別の事態に存在しているのかもしれないですね。 ヒトコワもオカルトも楽しめる、一粒で二度おいしいというようなお話でした。 は、世間が落ちている中でイケイケで運もいい若い男性なんて、ちょっと危がでも突っ込んで行っちゃいますよね。ましてやそれがお世話になっている。
										大口客ならなおのこと。そういう人の弱い部分に付け入って繁栄してきた集けがいることも気持ち悪いし、結局そっち側になってしまう主人公も嫌悪感を見じました。主人公も最初はちゃんと抵抗していたけど、単純に良い思いをしたいら抜け出せなくなっただけじゃなく、オカルト的魅力に引き付けられてしまったようにも考えられますね。強烈な経験をしてしまったからこそ、崇拝るしかなくなってしまうような。最後のオチは少し読みやすかったので意外は少し低めです。
355 j	連綿の輪	あきら	一般審査員H	19	19	19	18	19		は少し低めです。 読み終わった瞬間、思わずスマホ投げだしました!久しぶりにめちゃくちゃけいお話し。冷や汗ダラダラです。怖さ、沢山ありますが先ず人怖と怪奇が良いがランスで展開されていく所。器用で容量の良い青年がちょっとした過信で、社会的成功者の甘い言葉に疑いもせず乗っかって、挙句危険に晒されると言う。儀式の場に居合わせた「成功者達」にこれっぽっちも罪の意識が無いの
										また怖いですし、「レンメサマ」の正体が明かされないままなのも恐怖!鋭さ、ここも主人公視点のストーリー展開ですが、書き手の登場人物全員に対してのドライな視線が強烈でしたし、くどくもなく、かと言って説明不足で分がらいという事も無く、でも描写はあくまで冷淡に進んでいく点に強い鋭き感じました。新しさ、冒頭の男の若き日の記憶を語り出す所でカルト宗教を感じまして来たので、これはなかなか着地点が難しいぞ?と思っていたのでき
										が、確かにカルトある種のソレではあるのですが、それ以上に「呪術」的要素を感じましたし、また儀式の方法が編み込んだ長い黒髪を皆で代わる代わる理す、という奇怪なもの。最終目的は「ヤドガシ」なる皆に生命力と運を分り与えるもの。要は生贄。そういう帰結の仕方があったのか!と。そしてラスに明かされる男の真の目的。やられた!と思いましたね。ユーモアさ、人の行深さ、えげつなく身勝手な所、レンメ様の不気味な様、怖くて気持ち悪くて、
	車鎖の☆	**	d m							それ故に面白い。筆者の痛烈な皮肉も感じますし。意外さ、カルト宗教といったを切ると話の展開、何より話をどうまとめるかが格段に難しくなるとえているのですが、このお話の場合、カルトの部分は担保しつつも実際の所に病めいた儀式が執り行われるという展開。レンメ様もヤドガシの表現も怪して成立しています。怪異譚としてのストーリー展開に無理が無くとても最み応えがありました。
	車綿の輪車綿の輪	あきら	一般審査員I 一般審査員J	14						めちゃくちゃ面白かったです。文章も読みやすくドキドキしながら読み進められました。運をみんなでわけるために、運のいい人を犠牲に。。。ヤドカシになった人はその日から行方不明の扱いになってしまうのでしょうか?日本の行方不明の人の中にはもしかしてヤドカシになった人がいるかもと思ったらぞとしますね。 一人称で話が進んでいくことに、とても恐怖を感じました。また、この作者に行間の使い方がト手だと思います。何も文字がない白い空間が、次のシーング
										行間の使い方が上手だと思います。何も文字がない白い空間が、次のシーン/の期待を高める。想像もしなかった光景が繰り広げられていく。読み手は意然性に敏感になる。読後に一気に興奮が押し寄せました。運が良いことが結果に最大の不幸を招き寄せるという設定も、意外性に富んでいます。連綿様がほ見えないという設定も面白かった。見えないものには恐怖心を煽られる。近綿様に体を捧げた人間が自分でむしった髪の毛が、さらに縄に編み込まれてい
No 366	タイトル 入(い)らずの林の 猿	投稿者 暁の一番星	合計 <mark>評価者</mark> 一般審査員A	164 怖さ 19	162 鋭さ 16	新しさ	153 ユーモアさ 16	意外さ	785 合計 81	くのも不気味で良いです。一つ一つの細かな設定が影響し合い、読み手を恐怖へ誘う手法が見事でした。 書評 正直、なかなか怖かった。夢と現実が入り混ざったような語りにも迫力がある。とだ、それより、設定も怪談の伝統を守っているしっかりとしたものである。ただ、それより
š	uox							·		し、設定も怪談の伝統を守っているしっかりとしたものである。ただ、それ」 上の感想が浮かばないのが現状で、私にとってはとにかく怖いだけの怪談で あった。そうなってくると、他の項目の点数が下がってしまう。怖さ「だけ」 だとそうなるのである。では、どうすればいいのか。捻りを加えるのである。 細部の描写にこだわるといったことではなくて、本質的な部分に捻りを加え を哲学的にすると、必然的に他の項目の点数も上がるかと思う。しかし、ユー
	入(い)らずの林の 猿	暁の一番星	一般審査員B	12	11	12	12	13	60	モアの点数はこの怪談ではこれ以上伸びないだろうと感じた。その他の項目に関しては、伸びしろがまだある。 今回は誤字を怪談の内容と関係あるように誤字自体を演出にしていてなんかるいと思いました。話の中の7歳に分けてそれを食べるみたいな意味がわかりづらく理解できませんでした。オチ的には妖怪が中に入っているみたいな事で言っていたので尚更わからなくなりました。もう少し無知な私にもわかりでなくして欲しかったですね。
3	入 (い) らずの林の 懐 入 (い) らずの林の	暁の一番星	一般審査員C	19						くして欲しかったですね。 とても好みの作品でした。禁足地、妖怪、古文書、言い伝えなど洒落怖好きにはたまらない要素が盛りだくさんでした。猿の妖怪に魂を裂かれて食べられたことで、何を失ったのか…全てを語らずに考察できる余地を残す終わり方も見かったかなと思います。全体的に完成度の高い作品でした。 そこで終わり?釣り?!どういうこと!となったのは私だけではないはず…
3	猿									フィクションならやけに生々しい情景描写が多いけれど、現実離れした部分をいところを鑑みるとやはりフィクションなのか…と何度も読み直して楽しるお話だと感じました。田舎の旧家に受け継がれる眉唾ものの因習。とても野味深いです。魂を喰う、というのは分かりますが成り代わるのは何故なのか。全て因果が明確になっていないところも全体的な不気味さを増していると思います。
	入(い)らずの林の 猿	暁の一番星	一般審査員E	16	16	16	16	16		閉じ込められていたのは、こけしだったはずなのに、社の中の様子も外の様も体験しているようだった。実はこけしと一心同体だったのかと思った。それで徐々に心を乗っ取られている最中らしい。乗っ取られたらどうなってしまっか知りたいと思う。本来ならお供えするはずだった、3日目の供物の種類はどういうものだったのか気になってしまった、ザクロは欠かせないようだけど。妖怪はスフィンクスに似ているから見つかった時"ニンゲン"と言えばいし
366	入(い)らずの林の 懐	暁の一番星	一般審査員F	16	15	17	17	17		のだろうか、黄色い砂は砂漠の砂?でしょうか。最後のくだりがどうも二十歳の学生というより、おっさんのようだと思った。 土着信仰のような祭という題材は面白い。祭には掟があり、その掟を破るとり怪に七つの歳の魂を差し出さなくてはいけないという。妖怪との密約というでも面白い。洋は3日前から林に入ってはいけないという掟を破り、禁忌を侵した。林に入ってしまった事で妖怪に目を付けられ、魂を喰われてしまったので
366	入(い)らずの林の 猿	暁の一番星	一般審査員G	12	14	14	17	15		た。林に入ってしまった事で妖怪に目を付けられ、魂を喰われてしまったのしょうね。木彫りの人形を作り、身代りにして何とか難を逃れようとしたけだ、結局はこの時既にもう魂を喰われて半分妖怪化していたのかもしれないすね。もう一捻りあるともっと面白くなるような気がするので、次回作を期付したいところです。 今回の作品の中で一番洒落怖っぽいなと思いました。昔の2chを思い出してちょっと心躍りましたね。「もう寝ましょう(笑)」スレと、怪異系のスレの
1	мх									
366	入(い)らずの林の 猿	暁の一番星	一般審査員H	16	16	17	15	17	81	らきている妖怪でキメラっぽいというと鵺のように感じますね。であれば一般ではいかないでしょうとも…。 民間伝承と怪異と家に纏わる異形との誓い。意欲作ですね。ただ、如何せん みにくい!フォントの字が小さい上に敢えての演出らしい誤字脱字。うーん。 要らないかな、ここは。怖さ、お盆の祭りというワードだけで嫌な予感。まれ
										社のある森の中へ主人公が入る度、どのタイミングで恐怖が訪れるのか息を んで見守る展開。伯父が家に纏わるいわくと妖怪との契約について語る件な ど、なかなかに怖かったです。鋭さ、色々な要素が詰め込まれていると大体 とっ散らかった感じになりがちですが、そこは会話劇と場面描写を交互に織り 交ぜて、緊張感を出していて鋭さもあるなと感じました。新しさ、魂を分離。 せ7歳の魂にして喰らう物の怪という存在を登場させた事、形代として使った
	1 //··	Date -								人形が「ただの」人形では無く恐らくは、、という点です。ユーモアさ、妖怪姿がギャグにしか思えないのにキッチリ恐怖を与えてくる所、どうも甥であ、主人公を贄にしようとしている風な伯父。人はどこまでもエゴイスティックすね。意外さ、何だかよく分からん状態ながらも一応助かった?主人公。ただ、ラストで実は既に物の怪に取り込まれて、、?とぼやかしながらの終焉。引きますね~。モヤっとします(笑)
366	入(い)らずの林の 猿 入(い)らずの林の 猿	暁の一番星 暁の一番星	一般審查員I 一般審查員J	11						出だし、輪廻転生。赤ちゃんが生まれる瞬間の話と思ったのですが、全然違ました(笑)七歳分が食べれれて人格が少し変わってしまったのでしょうか。ある意味、生まれ変わりといってもいいのかな(笑)そして最後は2ちゃんねのような空気感(笑) 面白かったです。起承転結のそれぞれの部分に割り当てられた文章量のバランスがよく、読み手を飽きさせない作品だと思いました。姓が変わった理由など、親かい部分もおるそれにしない認定につぐ設定が作品のクォリティを真
										スがよく、読み手を飽きさせない作品だと思いました。姓が変わった埋田など、細かい部分もおろそかにしない設定につぐ設定が作品のクオリティを高くています。ところどころで違和感のある文字が差し込まれることが、最終的に何か別のものに体を乗っ取られてしまった可能性を彷彿とさせ、本当に伏線ではりかたが上手な方だと思いました。彼女と結婚しようと思っている、とあたにも関わらず、東京に戻ったら彼女と別れてしまうなど、先にさりげなく表現した内容が後からジワリと効いてくるのが最高です。7歳の「洋」が、妖怪ような神のような存在に自らを捧げてしまったのも良い設定でした。非の打き

	最愛、故に再愛	吉田涼香	一般審査員B	13	14	13			67	赤ちゃんが生まれてくる話だとつまんないか。そこは語り手の腕の見せ所でる。不思議な話じゃなくて普通の話を語る方が技術がいるのかもしれない。途中まで読んでみて子供に悪霊が憑いて霊能力のある友達が助ける話かなと思っていたら、その友達が実は呪いをかけていた悪役だったのにはやられまた。しかし、赤ちゃんが産まれる流れはちょっと強引すぎたかなと思ったぐいで本当に面白かったです。 異世界系のような話なのかと思いきや、呪い、ヒトコワ、転生と色々な要素、入った作品だったかと思います。赤ちゃんと高木アヤノのどちらが味方なのだ。
69	最愛、故に再愛	吉田涼香	一般審査員D	15	14	18	17	18	82	とハラハラさせる展開は非常に良かったです。 どこからどう考察をしたらいいのか不思議な世界の話でした。いつ、どのタミングで呪いの対象になるかは分からないものですが今回もやはり不条理。 親になりたい、という純粋な願いを踏みにじるような人はきっと幸せになれいでしょう。ただ、たまたまなのか本当に呪いが効いてしまっていたのならんな簡単に呪いを断ち切ることができるのでしょうか。全てアヤノさんがきになるような流れになっているのはいいですが、楽観的過ぎないかな?と気ちの悪さが残りました。アヤノさんを導いてくれた病院と先生、タクシー運手さんは一体何者だったのかも気になります。これらの不思議なものを受け
69	最愛、故に再愛	吉田涼香	一般審査員E	16	16	16	16	16	80	れられるアヤノさん、旦那さんのような素直な心の持ち主としか出会えないの神のような存在だったらいいな、と思いました。 同じ魂としか関われないなんて、ある意味不幸な気がする。お互いがお互いかばい合って、まるで共依存のようだ。それにしても急に妊娠して、急に出産、随分インスタントな感じがする。夫のワタルも不思議がっているのに疑に思わないのはどういうことなのだろう。とてもこの家族は歪な状態で成り立っているようだ。話の展開としてワタルと宮島ユミコの関係が腑に落ちない。呪いをかけるほど川本アヤノを目の敵にしているなんて尋常じゃない。
69	最愛、故に再愛	吉田涼香	一般審查員F	16	16	17	16	17	82	しかして不倫の相手?とも思えてしまう。話の全般に不妊治療を避妊治療と違えている個所は全く反対の意味で文面と矛盾が生じるので気にかかるとこだ。 怖さよりも、どこかホッと心暖まる気持ちを感じられるお話でした。アヤノんとお母さんの間には引き継ぎという契約が交わされていて、片方が死んだ後、生きている方に危機が迫ると助ける為に生まれ変わるという設定は面し、実際に、生まれ変わってもその度に親子だったり、兄弟だったりと、深絆で結ばれた関係になっている、と霊能者の人に言われている、という話を
369	最愛、故に再愛	吉田涼香	一般審査員G	10	10	16	10	10		いたりしますが、一方が危機に面したら助けに来てくれる関係って、羨ましもある。アヤノさんが、半ば諦めの気持ちで病院を訪れた時、本来通っていのとは違う病院に誘われたのでしょうが、それは異世界の病院だったのでしうね。それにしても、同名と名乗り、近づき、心配するフリをして本当は呪をかけていたユミコという女。ウザいから、という理由で呪いをかけるとかまさにヒトコワですね。 ハッピーエンド、なのかな?生まれ変わっても絆は消えないというお話ですね。爆速で赤ちゃんが誕生していること、それが現実でもちゃんと存在して
200	目感,也仁不感	+====	6ル帝木皇	40	10			10		ることが不思議でした。母体は大丈夫なのかと心配になるけど、本当に出産ているわけじゃないようなので、そもそも妊娠という認識も違うんですかね、少し場面ごとの繋ぎがばらついているように感じました。特にアヤノのこと最初に触れるあたり、説明文が多いのが少し気になりました。謎の声に対すミスリードがもう少し詳細に表現されていてもよかったかなと思います。育てるうちに子供なのか、母なのか判別がつかなくなってしまいそうで、そこちょっと怖いと思いました。
869	最愛、故に再愛	吉田涼香	一般審查員H	18	18	19	17	19		異世界系ですかね。ライトノベル感も少し感じました。途中、主人公が闇堕してしまうのでは無いかと冷や冷やしてましたが、良いおわり方で安心しまた。怖さ、通い慣れた病院が何故かいつもと様変わり、明らかに怪しい。診室も地下!?胡散臭さ満載で、アヤノがそのまま異空間へ連れ去られるのでは?という怖さや、急速なスピードでお腹が膨らんで行く異常さはバッドエ:ドしか思いつかん。。となりながらの終盤の展開。怖~。鋭さ、序盤の不妊の悩むアヤノの苦悩、葛藤、義母からの風当たり、美しく穏やかながらも謎めた女医。粛々と物語が紡がれ、主人公を憐れみの対象としては決して描かない。あるのは起きた事のみ。切り口鋭い。新しさ、異世界に彷徨うエピソー
										ない。あるのは思さた事のか。切り口肌い。新しては、実に外に関ラエピッ だと女医さんがヤバい存在だった、というオチが大半だと思うのですが上手 外してきましたね〜。最も生身の人間では無いでしょうが。また、何より赤 坊の存在です。まさかまさか、そういう事だったとは。「引き継ぎ」が愛故の 事象だったとは。ユーモアさ、高木アヤノこと宮島ユミコの存在です。あるi 味この人が一番人間臭いと言いますか。登場時から胡散臭すぎて、いつ化けい 皮が剥がれるかな〜?と思ってましたが。結局、旦那さんに横恋慕してたと う事なんですかね?安易に呪いなんかかけて馬鹿だね。却ってくる時の事考 ないのかな?碌な目に合わないと思いますが今後。意外さ、女医の指示で毎
869	最愛、故に再愛	吉田涼香	一般審査員I	16	12	12	10	12	62	のルーティンを欠かさず行なっていき、妊娠したアヤノ。しかも異常な速度出産。コレ絶対何かしらの代償取られるヤツでしょ?!と思ってたので、肩かしくらいました。ですので尚更ラストの展開に驚きましたし、理由もじんり暖かくなるものでした。嗚呼!それでこのタイトルに繋がるわけね!と納得。 病院。実際にほかの患者さんがいたのだから存在はしたのでしょうが、様子変わってしまった病院は、引継ぎの妊婦さんしかいなかったのか??引継ぎ
369	最愛、故に再愛	吉田涼香	一般審查員J	15	15	16	18	18	82	終わった後は以前の病院に戻っていたが、そのまま検診なんかは受けることできたのか??引継ぎに関してはわかったものの病院に関してはなにも解明れておらずもしや続編が??と思わせるお話でした。旦那さんの同僚は旦那んに一方的に思いをよせていたのでしょうか??会社で奥さんの話をするからってそんな呪いをかけちゃうのは少し変だなと思ってしまいましたので。。。研ぎすまれたナイフを突きつけられるような怖さはないけれど、心温まる不議話が、とても心地よかったです。仲良くなったタカちゃんが実は敵だった。言うのは予想しなかった展開で、驚きました。タカちゃんはご主人のことが
0	タイトル	投稿者	合計評価者	154 怖さ	150 鋭さ	160 新しさ	ユーモアさ	意外さ	762 合計	書評
	忘れないで忘れない で忘れないで忘れな いで	速水静香	一般審査員A	16	16					なんか惜しい気がする。もう少し哲学的で深みのある話にもできたのではなか。あるいは感動する話とか、本当にゾっとする話とか。色々な方向性に伸していけるポテンシャルを感じた。可能性・伸びしろはとてもあるように思う。全体的にバランスの良い怪談で、欠点はない。語りの雰囲気も斬新で面いし、適度な怖さも十分にある。あと一歩。どれかの項目あるいは全部の項の点数を上げようと「意識して」語りを工夫すると、さらに高い点数になっと思う。最終的な方向が定まっていないように感じたので、感動・恐怖いずかの方向に完全に着地させることをお勧めしたい。
65	忘れないで忘れない で忘れないで忘れな いで 忘れないで忘れない で忘れないで忘れない	速水静香速水静香	一般審查員B	11	12	10	10		56	誤字があるので、その度に話の世界観から現実に引き戻されるのでとても残だでした。内容ですがイマジナリーフレンドとして認識していた存在が実はクスメートだったっていうオチは意味がわからないし、正直ダメだと思いました。話しの辻褄が合わなくなるしDMの内容とも違ってくるのでめちゃくちゃになると思います。 中村智子は主人公のイマジナリーフレンドなのか実在した人間だったのかが、からない終わり方。この後どうなったのかが、気になる展開で終わっていた。描写は丁寧で読みやすかった。一方で怪談としての怖さに関しては物足りな
	忘れないで忘れない で忘れないで忘れな いで	速水静香	一般審査員D	18	15	17	18	18	86	を感じた。 言いようのない気持ち悪さと、得体の知れない存在に対する恐怖で自分までわぞわしてきました。生身のストーカーだとしても毎日捨て垢を使ってまで、絡をしてくる執着心も気味が悪いし、そうでない存在だとしても目的が分かなすぎて対応しようがない。小さなことの積み重ねでも徐々に追い詰められいく様子が、シンプルな文章の中でもしっかり描かれていてとても分かりかったです。最終的にイマジナリーフレンドだったのか、忘れていた元同級とだったのか混乱させる後味の悪い終わり方も印象的でこの話の締めくくりと
	忘れないで忘れない で忘れないで忘れな いで	速水静香	一般審査員E	17	17	17	16	17	84	てとても良いと思いました。 『中村智子』は『私』自身だった。読み始めは、イマジナリーフレンドだろと思って読み進めていった。しかし、集合写真のおかげで、あ〜、一人二役にんだと気づかされた。男性が語っているような表現で騙されてしまっていた。もともとの人格が乗っ取られそうになっている危機感で、メッセージを発信ていると思うと納得がいく。元の人格に戻ってもすぐに男性の人格が出て、入れ替わってしまうのだろう、だから急いで紙に文字を書いた。自分が消えしまう恐怖に、本当は忘れないでというより、思い出してと言いたいのでは、
	忘れないで忘れない で忘れないで忘れな いで	速水静香	一般審査員F	17	15	16	15	17	80	いだろうか。 ジワジワと来る精神的な怖さがあるお話ですね。ある日届いたSNSのメンシン通知。でも、それが毎日同じ時間に届き、最初は内容もなかったものが、んだん言葉が書き込まれるようになり、自分が常に見られているような内容なっていくのは確かに怖い。ブロックしてもまた違うアカウントから送信さ続けたら。考えれば考える程怖くなりますね。やがて、メールの送信者が分が幼い頃作り出したイマジナリーフレンドだと思い至った主さん。自身の気を疑うも、解決には至らない。結局、メールの送信者は本当にイマジナリ
	忘れないで忘れない で忘れないで忘れな いで	速水静香	一般審査員G	10	13	17	18	17	75	フレンドだったのか、それとも、小学生時代のアルバムの中に発見したクラメイトだったのか…。 正直に言ってしまうと、怖さはそこまでなかったですが、非常に趣深いもの感じる作品でした。パラレルワールド間でのすれ違いなのか、そもそも中村んはもう亡くなってしまっていて幽霊になっているのか。イマジナリーフレドではないことが最後に解るからこそ、余計に考察の域が広くなるところがいですね。パラレルに行ってしまったのは主人公の可能性も最後の部分があことによって色濃くなります。賛否は分かれると思いますが、私は好きな作品である。
	忘れないで忘れない で忘れないで忘れな いで	速水静香	一般審査員H	15	14	16	13	15	73	です。文章も綺麗なので非常に読みやすく、内容もすんなりと入ってくるのよりお話に集中できました。ドラマのように映像化して見てみたいと思いまた。 メールの送り主がなかなか明かされない展開。生きてるのか死んでるのか分らないまま話しが進んでいく。サスペンス調な印象あり。怖さ、知らないアレスからの謎の通知から始まり次第に、相手は自分の事を全て把握しているうな文章へ。怖いですね。追い詰められる様が。鋭さ、主人公が精神的にど
ae.	忘わかい 一つ	海ルギー	ėn min							どん追い詰められていく様子は鋭さありなんですが、短文でのやり取りがリミカルでソコがマイナスになってる気がしました。新しさ、途中までは謎の物が主人公に付きまとうという有り触れた展開かな?と思いましたが最後できました。着地点をそう持ってくるのかと。ユーモアさ、あまり感じられまんでした。物語の性質上難しいと思います。ただ、現代における便利さ故にじる歪みも感じられましたので、その点のユーモアさはあるかなと。意外さ、ここはラストの幕引きです。実際はイマジナリーフレンドなどでは無かったというオチ。それでも謎は残りますが。意外でした。
365	忘れないで忘れないで忘れないで忘れないで いで 忘れないで忘れないで忘れないで忘れないで忘れないで忘れないで	速水静香速水静香	一般審査員I	13	19	20	18		89	え??自分で生み出した友達ではなく、実在したクラスメイトってことですか??だったとしたら彼女はどうやって語手の状況をしっていたのか??もやもう生きてなく霊体がスマホにとりついたのでしょうか。どっちにしるな彼女は執着してるのでしょうか。 今の時代ならではの恐怖はとてもリアリティがあり、まるで自分のことのよにゾッとしました。「ともこ」とのやりとりが詳細にえがかれており、エスレートして行く様に恐怖心を煽られとても恐ろしかったです。イマジナリーレンド的な演出が面白いと思ったのですが、最終的には「ともこ」は実在す人物としてアルバムに載っており、結局彼女の正体がなんだったのか、少し
o 363	タイトル 呼い人	投稿者	合計 評価者 一般審査員A	146 怖さ 16	143 鋭さ 17	151 新しさ 17	145 ユーモアさ 17	意外さ	737 合計 83	乱しました。ある程度正体が特定できる話の流れが欲しかったです。イマジリーフレンドが実体化した、ということでしたら、その根拠を最後に挿入しもらえると、意外性があって良かったです。 書評 なんで神社で「ジェラート」やねん。と思ってたら話とちゃんと関係があっ驚いた。最後の展開は普通の話として考えても、怪談として考えても余計だ
363	呼い人	成星一	一般審查員B	13	14	12	11	12	62	し、唐突に過ぎる。さすがにここまで唐突だと、怖さや意外性というよりは、物語の破綻と捉えられかねない。とはいえ、小中学生向けの漫画雑誌の脚本ような語りと爽やかさには拍手を送りたい。最後にひっくり返るまでは非常面白く読んだし、実際に誰かに漫画化してほしいとさえ思った。だからこそ、その雰囲気に沿った展開をこちらも望むのである。故に、最後の展開は本当よくなかったと個人的には考える。 霊や妖怪にそそのかされる話は昔からありますが現代版にした感じの話しでた。話し自体はわかりやすくスムーズに流れていって読みやすかったんです。
	呼い人	成星一	一般審査員C 一般審査員D	14	10	10	12		64	た。 品 ひ目がはなが デットスム スに 流れていているが ドラバ フにん です。 ラストに近づくにつれ、段々と雑になってきて早足になっていくのが残念でた。もうちょっとゆっくりでもよかったと思います。 洒落怖ぽくはない。小説としての完成度は非常に高い。ハッピーエンドに見かけてのバッドエンドな終わり方は良い裏切りだった。神社でのナミさんのし方が少し単調で怖さに欠けた。 影ではなく「シミ」に恋をするという導入に興味をそそられましたが、書き、の癖がやや強めでところどころ内容が平板に感じてしまいました。前半は平名の表現が多めになっていて、のんびりとした穏やかな空気感があり、良か
363	呼い人	成星一	一般審査員E	16	16	16	16	16	80	たと思います。起承転結がしっかり作られているからこそ、その枠に収めよ と展開がやや説明調になっているところもテンポを悪くしてしまっているよ に感じます。字数内で伝える難しさはあるかもしれませんが、もっと自由度 高い文章を読んでみたいと思いました。 イザナギとイザナミの話のパロディ。登場人物の名で雰囲気がわかってしま た。シミが始まりなのか凪が何かを呼び出したのがきっかけなのかわかりづ い。ナミと行方不明者の因果関係もわからない。ところどころ神話をもじっ
363	呼い人	成星一	一般審査員F	17	16	17	17	18	85	いるが何も悪くないイザナミをひどく扱っているなと感じた。結局、筍のジラートを持ってくるから凪は逃げてしまったのかもしれない。それとも連れいかれたのか、ナミとジェラートを一緒に食べたことで、黄泉竈食と同じ状になってしまったのだろうか。ノン・チャ・モードがあの世とこの世の境界場だったりする、ジェーラートを食べると何かに呼ばれるのだろうか。どこか懐かしいような、例えるならお伽噺を読んでいるような、そんな雰囲を感じさせるお話でした。客観的視点で書かれているのが最近のお話の中で逆に新鮮な感じがしました。幼なじみの男の子に片めいをする女の子、とい
										話のパターンはよくあるものですが、男の子に年上の彼女が出来たらしいとう噂を耳にして、女の子がヤキモキするという描写は気持ちがよく描かれて、て甘酸っぱい気持ちになりますね。凪に見えていた年上の綺麗な彼女は、シが実体化したものだった—?紗奈には最初見えなくて、見えたと思ったらドロッとした顔でとても綺麗な女性とは言えない化けモノだった訳だけれど、んなモノに襲いかかられたら怖いに違いない。最後は正気に戻ったと思われ、凪が紗奈の前から姿を消したのは、結局、葬り去ったと思っていたシミの化モノに取り込まれてしまったのでしょうか?ハッピーエンドにはならなかったのは意外でした。
363	呼い人	成星一	一般審查員G	13	13	20	15	16		結局救えなかったのか、と無力感でいっぱいになるようなお話でした。シミ元々何かしらの障りがあったから力を強くしてしまってこうなったのか、障のあるものがシミ出たからこうなったのか。パレイドリアをしっかりとホラに持っていきつつ、シミがこんなにフォーカスされたお話もあまり聞かないで、斬新だと思いました。よくあるのは一つの舞台装置としてだけ登場して、そのシーンが終わったらおしまいなものが一般的だと思うので。文体が上は特徴的で、語り掛けるようなものだったのは印象的でしたが、この語り主はなのか?シミになってしまったこの後に何か別の大きなオチが待っているの
363	呼い人	成星一	一般審査員H	15	14	16	16	16	77	か?と思わせぶりになってしまったかなと思います。 うーん。決して悪くは無いのですが、怖さという点では弱いかな。前半の紗の片思いの相手凪の恋人、満を持しての登場からの正体を明かし、その姿たや、の部分が怖いよりグロいになっちゃってます。グチャグチャ描写より美いまま狂気に変わっていく等の方が良かった気がします。鋭さ、ここも紗奈の想いの部分に場面を多く割いていますが、青春物語と化している部分に、鋭さと言う点では決定的に弱い。もっと身近で徐々に凪の異変に気づていく、ヒリヒリ、じりじりした場面が欲しいです。新しさ、怪異の始まりでいく、ヒリヒリ、じりじりした場面が欲しいです。新しさ、怪異の始まり
										シミで表現している点では面白いです。ただ、凪が実在しない、それも良くだい存在と恋仲になっており紗奈がそれを見つけて立ち向かう。なかなかに度のあるヒロインで嫌いじゃないですが、では新しいか?と言われると違うといます。いっその事、実在はするが人であって人ですいれる、の方が良かった知れません。ユーモアさ、ナミが正体を現す時ですかね。ちょっとホラーゲームに出てくるキャラみたいでした。一周まわって面白い、みたいな。意さ、ここはラストですね。凪も既には予想してなかったので。いずれ紗奈も、、という仄めかしも感じられ、意外な終幕となりました。
	呼い人	成星一	一般審査員I 一般審査員J	13	12				75	助かってハッピーエンドかと思いきや、どこに行ってしまったのでしょう。 が切れなかったのでしょうか。彼は戻ってくることができるのでしょうか。 みやすい文章でした。もしや今度は凪ちゃんが。。。続きがきになりますが、 きはないのですよね。 使われている言葉がとても美しく、全体的に滑らかな文章で、心地よく読みすかったです。少女の恋愛の描写が繊細で、表現力のある方だな、と思いま た。シミをテーマにしたのは目の付け所が面白いと思います。ただ、シミを・ チーフとして活かしきれていないのが残念でした。また、凪がナミとどうや
			솜計	143	135	150	147	154		て出会ったのかも、どこかで表現して欲しかった。なんとなくですが、イザミとイザナギの黄泉平坂の話を思い出しました。紗奈が桃をナミの顔に投げけるシーンがありましたが、場所も神社ですし、桃がナミを退ける決定打になったら、より面白かったと思います。怪談としてより、恋愛小説として読んたいと思いました。
			合計	143	135	150	147	154	729	

No 364										
	タイトル ドス黒い何か。	投稿者 サクちゃん	評価者 一般審査員A	怖さ 16	鋭さ 17	新しさ 16	ユーモアさ 16	意外さ i 15	合計 80	書評) いい話。ただ、展開は完全に予想通りで、新しさや意外性は特に感じなかった。ただ、生きていくうえで重要なことが語られており、それが怪談の内容と
										も密接に関わっているので、鋭い切り口は評価できる。悲惨な話でありながら、教訓が語られていることによって、全体的に未来に対して前向きで明るい雰囲気の怪談であることも評価に値すると感じた。結局のところ、霊だなんだ言っても、人が認識できる、人から作られた(人が作った?)ものだということを再認識すると同時に、それだけ「人」の重要性についても再認識するよいきっかけとなった。
364	ドス黒い何か。	サクちゃん	一般審査員B	12	12	13	10	12	59	はじめに言いますが誤字が何個かありました。作品を投稿する前にもう一度、ご自分でお読み下さい。話を戻します、今まで同じような話を読んだことがありますがそんな体験をした人が本当にいるということなんでしょうかね。でも自己流の修行をして死にかけるより、はじめから住職さんに頼んだ方がいいというのがわかる話しでした。
	ドス黒い何か。 ドス黒い何か。	サクちゃん	一般審査員C	17						7 洒落怖っぽい語り口がこのグランプリの趣旨によく合っていると思う。また、描写も細かくリアリティーが有り良かったです。個人的には後半のクライマックスが物足りない感を覚えましたが、本当にあった話なのでは?と思わせられました。 ふわっと視える、感じるレベルで心スポ巡りを楽しんでいただけのはずなの
304	トへ赤い門か。	77570	一放街且貝U	20	19	17	17	10	91	に、こんなことに巻き込まれるとは全く想像していなかったので読みながら感情がぐちゃぐちゃになってしまいました。良くないものが憑いているのではなく、「ドス黒い何か」は自分自身の中に在る誰でも思い当たることがあると思います。もちろん私にも。だからこそとても怖かったです。最終的に体験者の勇気と優しい心に救われる気がしました。夜中にわくわくしながら洒落怖を
364	ドス黒い何か。	サクちゃん	一般審査員E	16	16	16	16	16	80	読んでいた時の気持ちを思い出させてくれたお話でした。ありがとうございます。 「気持ちを強く持って」というエール。強く持つって、エネルギーがいるからねぇ。ひとりで何もかも背負うのは無謀であるということですね。A父も連帯保証人を引き受けてひとりで背負ってしまったし、『僕』もAのことがある為
										保証人を引き受けていてりで育員ってしまったし、「僕』もAのことがある為に黒い何かを引き受けてしまった。それぞれ人は自分の闇を背負うだけで限界なのだから、なんて無謀なことを自殺行為に等しいです。何よりもここで一番助けられないといけなかったのは「僕」自身だったことに気づけて良かった。誰でも自分の闇とうまく付き合っていくしかないし、闇から成長できることもあったりするから、Aの兄と妹も自分の闇は自分でコントロールして欲しいと
364	ドス黒い何か。	サクちゃん	一般審査員F	15	13	14	. 13	13	68	思ってしまった。 3 誰の中にも存在するであろう負の感情―。それが具現化した時、それはこの話のように、ドス黒いもので、時に煙のように、時に人の形をして現れて見えるのかもしれない。よくマンガで暗く落ち込んだ人物を描く時に線を沢山描いて
										影をつけて表現したりするけれど、実際に明らかに影を感じる人がいれば、その人自身だけでなく、周りも暗く感じる事はある。最後に投稿者さんも言っているように、気持ちを強く持ち、気持ちで負けない事は大切だと思う。お話の怖さは正直、それ程高くは評価出来なかったのですが、読まれた方々への警鐘になればいいなと思います。誤字、脱字が少々多かったので、そこは投稿される前に見直しを。
364	ドス黒い何か。	サクちゃん	一般審査員G	10	13	10	18	13	64	少し展開がありきたりに感じました。でも、実体験のお話だとするととんでもない話ですね。他人の負の感情を引き取る、しかも数人分なんてほんの数日でも生きていける気がしないです。自死というのは連鎖してしまうこともあると聞くので、それはこういう理由もあるのかもしれないと思わせる作品でした。
										実体験ならではの穏やかさなので、リアリティーはずば抜けていました。ただ、そうなるとどうしてもインパクトに欠けてしまうかなと思います。そこのパランスを上手くとるのは難しいと思いますが、例えば起きた出来事や人物の描写をより詳細に(五感を刺激するようなもの)してみると没入感が増していいかもしれません。
364	ドス黒い何か。	サクちゃん	一般審査員H	14	15	13	12	. 11	65	教訓譚としては評価できます。構成もある程度の上手さは担保できています。ですが、怪奇という点では。。怖さ、霊感のある主人公が友人にある事を頼まれ、怪異に巻き込まれていく。肝心の怪異が怖くありません。いや、表現が怖くなくさせてしまってると言いますか。黒い影、登場するタイミングや描写でかなり怖さが違ってきたと思います。鋭さ、ここは登場人物や状況説明に多くを割きすぎていて、全体的に印象がぼやけてしまい鋭さが損なわれています。
										新しさ、さほど感じません。主人公が最終的に黒い影を取り込んで、修行する事で浄化しようとする。その点では新しい面もあるとは思います。とは言え、最終的には住職に委ねていますし、序盤の展開も驚きは特にありません。ユーモアさ、うーん。友人と、友人の父親は亡くなってしまってますからね。敢えて挙げるなら、末文の主人公の決意でしょうか?物言いが独特というか。あれ
364	ドス黒い何か。	サクちゃん	一般審査員Ⅰ	12	11	11	10	10	54	だけの事があったのに妙に楽観的というか(笑) 最後、意外さですがコレはすいません。無いです。予定調和。何となく展開が読めてしまうのが致命的です。 恐らく原因は、丁寧に順を追ってストーリーを描きすぎている為、だと思います。 オヤジさんは自分自身に負けて亡くなったわけで、なぜ息子を巻き込んでし
30-	1 2/24/01/1979 0	775 470	以田旦只!	12	''			, 10		まったのかなと。確かに信じていた人に裏切られ多額の借金を背をわされて、 先行き不安であったかもしれないが、解決方法はあったはずだ。オヤジさんが 借金を背負ったのち、しっかりしていれば語手さんもこんな思いしなくてよ かったのにと怖いというよりちょっとしっかりしなさいよと思うお話でありま した。次はAと行った心霊スポットの話でも(笑)
364	ドス黒い何か。	サクちゃん	一般審査員J	16	13	13	15	13	70	黒いものの正体が、自分のネガティブな部分、という設定がとても良いです。 誰にでも起こりうる現象というのはリアリティがあり、話に引き込まれます。 体感できる怪談というところでしょうか。主人公が修行をするくだりは、もう 少し詳しく書いてもらえるととても良かったと思います。文章が少し読みづら
			0.71							かったです。会話の部分は「 」でくくってもらえると読みやすいです。また、ですますか断定かで文体を統一してもらえると更に読みやすいと思います。言葉の使い方に違和感があり、流れが止まってしまうので、もったいないと思いました。設定はとても良いと思うので、文章の書き方を工夫した次回の作品に期待したいです。
	I		合計	148	146	138	141	135	708	